

学びの風便り

リーディングスクール通信19 R6.4.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター

今年度も松本市のリーディングスクール・パイオニアスクールの取組みの様子をお伝えする通信「学びの風便り」をお届けします。今年度は、昨年度までのリーディングスクール8校・パイオニアスクール5校に、新たにアソシエイト校6校を加え、計19校の取組みを伝えていきたいと思います。各校の前向きで創造的な取組みや学校づくりのアイデアが、松本の全ての学校の軽やかな挑戦への気風の一助になれば、うれしく思います。



学びの改革のあゆみ 丸ノ内中学校・筑摩小学校



丸ノ内中学校

パイオニア校2年目 “探究”を探究する丸ノ内中学校

丸ノ内中学校は、昨年度の探究をさらにシンカすべく研究部会をDX班と探究班に分け研究を進めています。月に一回以上行われる“戦略会議”では、DX班と探究班の主となる先生が集まり、丸ノ内の探究のあり方を考えています。今年度は「『探究の授業の進め方』をわかりやすく 見やすく 親しみやすく」を目指し、丸ノ内中独自の探究フレームワークを作っていきます。



生徒が探究を進めるとき、どこに興味をもち、どこにつまづき、何に困るのかなど、教師はある程度予想しながら学びを進めていきます。しかし、探究をした経験の少ない教師にとっては、どのように伴奏したらいいかイメージしづらいものです。そこで、丸ノ内中学校では、教師自らが探究する“模擬探究”を行います。DX班と探究班のメンバーが混ざり、4人グループを作って、自分たちでテーマを決めて探究をします。最終的には、11月に開かれる第4回丸中 Jr.学会の前に、職員のポスター発表でこれまでの探究をアウトプットします。

教師が生徒を伴奏するために、教師自ら探究の良さや大変さなどを体験し、生徒の探究を楽しもうとしています。このような取り組みから、丸ノ内中学校独自の「探究の授業の進め方」のフレームワークが作られ、生徒がやりたいことをとことん追求できる場が生まれてくると思うとワクワクしてきます。



DX班って？

職員のICT活用のスキルアップを目指します。

デジタルポートフォリオ、統計、アンケートの活用などのスキル、CanvaやGoogleカレンダーで情報共有なども考えています。

探究班って？

忠恕の時間（総合的な学習の時間）が立ち上がると、どのように進めたらいいか困ることがあるので、チューニングを通して、先生方の困り感を共有したり、アイデアをもらったりして単元構想を考えます。

パイオニア校2年目の丸ノ内中学校。常にブラッシュアップし続けています。



リーディングスクール校として、全校で「自由進度学習」の実践の歩みを進めている筑摩小学校。

昨年度までの歩みと今年度取組みたい実践を、立石先生（研究主任）、北野先生（昨年度研究主任・今年度教務主任）、校長先生からお話を伺いました。

■自由進度学習で先生方のコミュニケーションが増え、学校が一つの方向へ！

●最初は試行錯誤の連続で、“自由進度学習”とはどういうものか実践校から学ぼうと、県内外の実践校へ視察に行き、それを校内の先生方に伝えていくことから始めました。昨年度は研究部会を「低・中・高学年の自由進度学習」の3部会に分け、連学年で検討し合い、子どもの実態に応じて「うちの学年はこの形ならいける」と共有しながら授業をつくっていきました。低・中・高学年と近い学年で情報共有しながら考えたので、“自分事”としてとらえる先生方が多かったと思います。自由進度学習は、“教材研究が命”で、「この単元ならここを子どもたちに考えさせたい」など、学年で相談し合いながらつくっていくので、自然とコミュニケーションの機会が増えました。一人で抱え込まないようにお互い情報交換しながら教材づくりを行っています。



●昨年度のスタートの研修会で、研究主任が「自由進度学習は、登山と同じでゴールは決まっているけど、どの道に登るか選ぶことができる。いろいろな道を用意するのが教師。その道を決めるのが子どもたち」という説明がとても分かりやすく先生方がイメージをもてたのではないかと思います。実際に2年生と4年生で自由進度学習の授業を公開したので、さらに理解が深まり、まずは「どの学年も1単元やってみましょう」というところから始めました。筑摩小の自由進度学習は「こうやりましょう」と型を決めるのではなく、学年の実態に応じて、“ゆるやか”に「できるところからどうぞ」というスタンスでやっていったので、温かい雰囲気の中で先生方がやってみようという気持ちになったと思います。学校全体で「自由進度学習をやってみよう」と一つの方向に向かっていけたことが大きな力となりました。今年新しく赴任した先生方との対話も大切に、一緒に取組んでいきます。

■子どもたちにとっても、私たち教員にとってもよい学びになっています！

●子どもたちは、自由進度学習をやるといって「ヤッター」と喜ぶ子が多いです。「自分のペースで進められるのがいい」「待っている時間がないのがいい」「好きな場所でできる」「気楽に友達に相談できる」など肯定的な声が多いです。教師側からすると、教材づくりは大変ですが、「子どもをよく観ることができる・困っている子へ支援に入ることができる・体験コーナーや発展学習などを設けることにより、普段の授業なら時間が足りなくてできないことがやれる」などの利点があると思います。



●自由進度学習をや、今まで先生ありきの児童会だったり授業だったりしたのが、「何か自分たちで決めたことをやってみたい・新しいことを工夫しやってみたい」という雰囲気が少し出てきたかなと思います。昨年は運動会でも、連学年の種目は「子どもたちがやりたい」種目を実施しました。全校種目も6年生がやりたいと言った「大玉送り」を久しぶりにやりました。自由進度学習だけでなく、先生方が日頃から「何をやりたい？」と子どもたちに投げかけ種を蒔いているので、子どもたちが話し合い決める場面も多くなり、自主的な雰囲気が生まれてきているのだと思います。

■今年度は自由進度学習以外にもチャレンジしてみたいことがあります！



●今まで4・5・6年で実施してきたクラブ活動を、テーマごと自主的に活動する「フリースタイルプロジェクト」にしたいと考えています。これは、県外視察に行った学校でやっていたもので、本校の子どもたちもできるのではと思い、チャレンジすることにしました。自分たちでテーマを決め、追究したい事柄に継続的に取組んだり、共通の興味・関心をもつ友とかかわり合ったりしながら、計画を見直し修正しながらゴールを目指します。全12時間の予定で、活動する楽しさを味わい、自分の生活をより楽しく豊かなものにしようとする子どもの姿を願っています。

★取材を通じて、筑摩小の先生方が「子どもの自主性を伸ばそう」「子どもに委ねる場を大切にしよう」と模索する姿を感じました。筑摩小は、2年目もシンカし続けます。